



東京の西多摩地域の市民グループに招かれた福島の子どもたち。屋外でプール遊びを楽しんだ。今年8月、東京都の国営昭和記念公園

# 介護の悩み マンガでお答え



家族を介護する人に寄り添い、悩みや不安に答えるコミックエッセー「心がすっと軽くなる ボケた家族の愛しかた」（高橋書店）が出版された。著者は介護に悩む人が集まる「つどい場」を兵庫県

西宮市で約12年続けてきた丸尾多重子さん。「今までしんどかったなあ」「誰にも話せなかったこと、ぜんぶ聞くと」。丸尾さんは多くの介護者の話を受け止めてきた。本はそのうち7組の家族のエピソードを漫画で紹介。様々な悩み相談にも答える。がんばる期限を決める

▽できることを数える▽「私は女優よ」と思いこむ、など「イライラしない技術」も参考になる。監修の長尾和宏医師のコラムには、後悔しない施設選びや頼れる医師の探し方といった情報が満載。漫画は介護施設で働いた経験を持つ北川なつさん。1100円、税別。（千河朋子）

## 相談、「全国協議会」受け付け

「311受入全国協議会」は保養キャンプに参加したい人や福島から移住したい人の相談を受けている。事務局の電話は070・6615・2989。電子メールはinfo@311ukeire.net。保養のための情報誌を発行する団体「リフレッシュサポート」は情報誌を送付し、相談も受けている。電子メールはnfo.re.sup@gmail.com。

## 高いニーズ今も

キャンプ参加を希望する人は相変わらず多い。全国協議会は福島県内を中心に相談会を30回近く開いてきた。多い時は300人ほどが来場するという。11月上旬には福島県相馬市と

は、同じレベルの地点もあれば、6倍近い地点もある。チェルノブイリ原発事故後のウクライナを取材した経験があるジャーナリストでネット放送局「Our Planet TV」代表の白石草さんは、「ウクライナでは、災害などで厳しい環境に置かれた子どもを安心してできる場所で保養させるという国家政策をとっている。子どもたちにとっては、健康面だけでなく、他の地域の人が温かく受け入れてくれたという経験も大切だと話している。（山田理恵）